



はちのうかい ひらかわし
八農会（青森県平川市）

- 本地域では、農家の高齢化が進行し、農地や農業用施設の適切な維持管理に支障を来していた。また、地域住民が協力して環境整備活動や農村文化を継承する取組を行ってきたが、参加人数は年々減少していた。
- このような状況から、平成29年より多面的機能支払交付金による取組を開始することとした。
- 特徴的な取組として、地元の伝統行事の田植祭に参加し、小学生に伝統的な水稲作業を指導したり、地域の若手を巻き込んだしめ縄作りなど農村文化の継承に取り組んでいる。
- 活動参加者を増やすため、他団体との交流を積極的に行い、多様な世代の参加者が増えたことで、地域住民同士の交流が深まり、地域の活性化に繋がっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積 141ha
(田 106ha、畑 35ha)
- ・ 資源量 水路21km
農道19km
- ・ 主な構成員 農業者、自治会、
子供会、PTA 等
- ・ 交付金 約8百万円（R4）

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 本地域の農業用水路は土水路が多く、農家の高齢化もあいまって、維持管理が困難となりつつあった。
- 地域住民が協力して環境整備活動や農村文化の継承等を行うなど、地域としてまとまりがあることが強みであったが、参加人数は年々減少していた。

取組内容

- 小学校の児童が地元の伝統行事である「御田植祭」に参加し、一連の農作業や食育を体験する活動を実施。
- 地域の若手も参加して、神社に奉納する大型しめ縄作りを復活させるなど、農村文化を継承する取組を実施している。
- これまで参加していない会社の定年退職者や農業後継者に個別に接触し、機械の安全講習を受けてもらいながら、活動参加者を増やしている。

取組の効果

- 学習田における農作業について、児童が県推進組織主催の絵画コンクールに応募して受賞するなど、農業農村の多面的機能への理解が深まっている。
- 地域の伝統行事への参加者は増加傾向にあり（コロナ禍で減少したものの）、地域の結びつきが深まっている。
- 新たな参加者の増加により、草刈り作業の人数が2倍以上に増え、作業効率が上がっている。



親子参加による植栽活動



小学校と連携した農作業体験



安全対策を施した草刈り作業



大型しめ縄設置の様子

ながしなちいきみどりほぜんたい よもぎたむら 長科地域水土里保全隊（青森県蓬田村）

- この地域では、以前から水掛が3系統（地下水ポンプの利用、沢水の利用、ため池の利用）に分かれ、それぞれ独立して管理してきた。
- また、農家の高齢化や人手不足により、農道の補修や排水路の泥上げ・草刈りなどの管理に手が回らなくなり、農業の継続に不安を抱くようになっていた。
- このような状況を打開するため、平成19年度から、旧農地・水・環境保全向上対策に取り組むことになった。
- 活動の結果、保全隊が農業用水の一元管理と、昔の水掛のエリアを超えた地域全体での農地や農業用施設の保全管理の協力体制を構築したことにより、異なる水掛同士の確執が消え、地域住民の一体感が強固になった。

【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積162ha
（田 160ha、畑 2ha）
- ・ 資源量 水路 36.4km
農道 15.9km
ため池 2箇所
- ・ 主な構成員 農家
- ・ 交付金 約10百万円（R4）

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- この地域では、昔から水掛が3系統に分かれ、それぞれ独立して管理と賦課金の徴収を行ってきた。水路は繋がっているものの、仮にため池が水不足となり、沢水が豊富に流れていても、以前であれば水を融通する習慣はなかった。
- 農家の高齢化や人手不足により、農道の穴補修や排水路の泥上げ・草刈りまで手が回らなくなり、農業の継続に不安を抱くようになっていた。

取組内容

- 農道・水路・ため池の草刈、軽微な補修（農道の砂利敷・水路漏水箇所が目地詰め等）を継続的に実施。
- 長科地域の耕地は水稻が主であり、平成19年から農道沿いに花の植栽を行い、彩りを添えてきた。
- 農道に砂利を撒き出す際、周辺に散らばった砂利を伸縮式アルミ熊手によりかき集めながら作業を実施。
- 農業用水源の一つである長科川の堆積土砂の排除は、重機が川に入っていけないため、大人数でのバケツリレーを行って通水を確保。

取組の効果

- 農地・農業用施設の保全管理活動の結果、農地を取り巻く環境は良好に保たれているため、耕作放棄地も皆無である。
- 令和2年から4年度にかけて、青森県多面的機能支払交付金植栽活動コンテストで最優秀賞を連続受賞。花壇づくりのための植栽方法、花の選定等、女性の意見を重要視したことをきっかけに、他の作業においても特に女性の発言・行動が活発になった。
- 砂利敷の際に工夫を施したことにより、砂利購入量の節約となった。
- 分水工を改修した結果、鉄砲水への対処やため池が水不足の際の補給が円滑に行えるようになった。



熊手を活用した砂利敷



バケツリレーによる泥上げ



令和4年度植栽



■ゲート改修前

- ・ 木製の角落しで管理
- ・ 大雨時は管理不能



■ゲート改修後

- ・ 鉄鋼ゲート
- ・ 大雨時でもらくらく管理



ほねでらむらしょうえんだんちためんてききのうほぜんかい

いちのせきし

骨寺村莊園団地多面的機能保全会

(岩手県一関市)

【地区概要】※R4年度時点

- ・取組面積105ha
(田88ha、畑11ha、草地6ha)
- ・資源量 開水路23.0km
農道15.5km、ため池5箇所
- ・主な構成員 農業者、地域づくり推進協議会等
- ・交付金 約7百万円 (R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

- 本地域は国の史跡等に選定されているものの、曲がりくねった水路等と農業者の高齢化等により維持管理の負担が増大。
- 本制度の取組を機に草刈・泥上げを一斉作業に切り替え効率化。景観に配慮した施設の補修や、ホタルが生息する水路周りの草刈りは、ホタルの生息に配慮。
- 草刈り等に企業や大学等から数多くボランティアが参加。世界遺産を目指す取組が関心と呼び、観光客が増加。また、ホタルに配慮した取組により、ホタルが増加し、新たな観光資源化。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、中世平泉の荘園の景観を色濃く残す地域で、「骨寺村莊園遺跡」として国の史跡や「一関本寺の農村景観」として国の重要文化的景観に選定。
- 曲がりくねった水路や不整形な水田の広がり詩的景観を醸し出すものの、農業者の高齢化や担い手不足により維持管理の負担が増大。
- 営農条件を改善するため景観保全型農地整備を実施したが、景観に配慮し、土水路や未舗装農道は残すことになり、これからの維持管理が課題。

取組内容

- 従来、3水系それぞれで実施していた草刈り・泥上げを、本制度の取組を機に年2回の一斉作業に切り替えた。また、ほ場整備区域外において農道及び水路の景観に配慮した補修等を実施している。(水路は景観に配慮した自然石を使用。)
- ホタルが生息する水路回りの草刈りは、ホタルの活動が活発になる時期を避けて実施し、ホタルの生育に配慮するとともに、地域住民等との交流活動として「ホタルを見る会」を開催している。



景観に配慮した自然石水路



ホタルを見る会

取組の効果

- 本活動の地道な作業の重要性が認識され、地域の建設業協会や水道組合、市の管理職会、岩手大学の学生等がボランティアで共同作業に継続的に協力。
- 草刈りや泥上げ等により、農業者の負担が軽減されるとともに、歴史的景観が保全。
- 世界遺産登録「平泉」の関連資産として拡張登録を目指す取組が国民的な関心と呼び、歴史的景観を楽しむ観光客が増加。
- 土水路の維持管理や生き物に配慮した草刈りによりホタルが増え、「ホタルを見る会」も地域内外からの参加者が増加。農村の自然環境について学ぶ場として、都市農村交流が拡大。



県独自の取組（給水栓の更新）

平地農業地域



キーワード

都道府県独自の取組

農業用施設の機能増進

組織の広域化・体制強化

さらきちくのうち・みず・かんきょうほぜんそしき
更木地区農地・水・環境保全組織

きたかみし
(岩手県北上市)

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 318ha
(田318ha)
- ・資源量 水路 62.8km
農道 23.1km
- ・主な構成員 農業者、自治会等
- ・交付金 約22百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

- 本地域は、農業者人口の減少と高齢化が進んでいることから「結い」に代表される集落機能が脆弱し、地域の共同活動の困難化に伴い水路・農道等の施設の保安全管理に対する担い手農家の負担の増加が懸念されるとともに、近年は施設の老朽化が課題となっている。
- 構成員全員の参加を基本とし、農業用施設の草刈り、用水路の泥上げ清掃やパイプライン施設の点検を実施し、補修等迅速に対応できるようにしている。
- 本活動により、用水施設の補修が減少し用水が安定的に確保され、担い手の営農意欲の向上などに繋がっている。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、地域住民と協力して水路・農道等の施設の保安全管理を行っているが、近年は施設の老朽化が課題となっている。
- 特に、ほ場整備事業実施地区のパイプラインは、施設の経年劣化により、漏水や破損等で、用水調整が不安定となり営農に支障を来している。



地域全体図

取組内容



- 農業用施設の草刈り、泥上げ清掃や点検、農道等の補修を行った。



水路草刈作業



農道補修作業



- 農業用パイプラインの給水栓は、漏水や破損、バルブ変形で開閉に支障がでており、交換作業を実施した。



給水栓の交換：着工前⇒施工後

取組の効果

- 共同活動により、水路の機能が維持され、農業用水を安定的に確保でき、担い手大規模経営による農業振興が図られている。
- 本交付金により草刈した場所で地域で小学生向けの虫観察会を実施しており、地元の自然環境に関心を持つ機会となっている。
- このような活動を通じて、地域住民の協力が得られるようになり、地域コミュニティの再構築に繋がっている。



水路の泥上げ



虫観察会



こつなぎざわちくのうち・みずかんきょうほぜんかい
小繋沢地区農地・水環境保全会

にしわがまち
(岩手県西和賀町)

【地区概要】※R4年度時点

- ・取組面積 18ha (田 18ha)
- ・資源量 開水路 6.0km、農道 3.0km
- ・主な構成員 農業者、自治会等
- ・交付金 約1百万円 (R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

- 本地域は山間地にある集落で、後継者不足等により遊休農地が多く点在。
- 小繋沢集落は中山間・多雪の地域にあり、条件的に厳しい環境であるが、集落の総合力で活性化を図ろうと「繋の郷づくり委員会」を設立し、都市で暮らす集落出身者とともに、集落の特長を活かしたイベント活動の実施や、活動情報の発信を行うなど、地域の枠を越えた交流活動を展開。
- 本制度の取組を機に遊休農地の維持管理を行い、遊休農地の解消するとともに、「繋の郷づくり委員会」の大根栽培・加工を下支えしている。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、高齢化に伴い後継者不足により遊休農地が多く点在していた。



- 農道や排水路が未整備のところが多く、営農に支障をきたしていた。



取組内容

- 遊休農地解消のため、本交付金を活用して草刈など実施。

- 地域内の建設業関係者が、重機の手配や技術力の提供を行い、未整備の道水路を直営施工によりコンクリート水路に更新。



直営施工によるコンクリート水路施工

取組の効果

- 多面的機能支払交付金の導入により農道や水路の草刈りや泥上げなど共同活動への参加者が増加した。
- 道・水路整備により農作業の効率化が図られた。
- 直営施工により、水路更新のノウハウ取得や施設の保全管理の意識が高まったほか、経費の節減にもつながった。
- 遊休農地を解消し、地域で大根を栽培・加工しており、農産物の高付加価値化などに寄与している。



遊休農地を活用した大根栽培



大根の一本漬け



たまさとしょうわかつどうそしき
玉里昭和活動組織

おうしゅうし
(岩手県奥州市)

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積140ha
(田121ha、畑9ha、草地10ha)
- ・資源量 水路27.5km、農道21.0km
- ・主な構成員 農業者、
農業者以外等
- ・交付金 約9百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

- 本地域は、農業者の減少と高齢化が進んでいることから地域農業を維持していくために、地域住民と協力して水路・農道等の施設の保安全管理を行っているが、近年は施設の老朽化が課題となっている。
- 構成員全員の参加を基本とし、水路の泥上げ清掃、危険箇所点検を実施し、補修等迅速に対応できるようにしている。
- 本活動への参加により、地域の防災に対する意識向上や減災力の強化に繋がっている。

活動開始前の状況や課題

- 本地域は、地域住民と協力して水路・農道等の施設の保安全管理を行っているが、近年は施設の老朽化が課題となっている。
- また、近年自然災害が多発していることにより水路の氾濫や側壁の倒壊が懸念されている。



地域全体図(R4)

取組内容



- 氾濫防止のため、水路すべての点検及び泥上げを行い必要に応じて水路補修を実施している。
- 農業者のみが使う水路という認識ではなく、減災のために必要な水路という認識を持ち、防災・減災に関する地域の意識醸成を図っている。



水路危険箇所点検(側壁が老朽化)

取組の効果

- 共同活動により、水路の機能が維持され、災害の発生を未然防止。台風通過後に現地を見回り、泥上げを行うなど、迅速な対応をとることができた。
- このような活動を通じて、共同活動に対して地域住民の協力が得られるようになり、地域コミュニティの再構築に繋がっている。



水路の泥上げ



あしろちいきためんてききのうほぜんそしき 安代地域多面的機能保全組織

はちまんたいし
(岩手県八幡平市)

- 平成19年度に八幡平市の旧安代町内11(地区)組織で取組を開始。
- 各活動組織から事務処理の煩雑化等により活動継続の難色を示されたことから平成24年度に11組織を統合・広域化し、安代土地改良区へ事務を委託。
- 令和元年度からは、未実施の1地区が加わり、12地区を構成とした広域組織として旧安代町内全域で活動。
- 事務を受託した土地改良区では、活動記録等のとりまとめを行うため、独自の「活動記録集計・会計処理システム」を開発。また、事務を受託したことで改良区において多面的交付金の事務の専従職員の雇用を創出。

【地区概要】 ※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積893ha
(田573ha、畑42ha、草地278ha)
- ・ 資源量 水路181km、農道129km、
ため池1箇所
- ・ 主な構成員 農業者、自治会等
- ・ 交付金 約43百万円 (R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

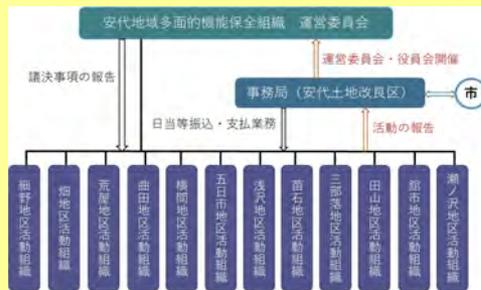
資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

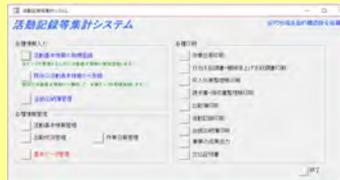
- 本地域は、平成19年度から八幡平市旧安代町内11組織で農地・水・環境保全向上対策に取り組んでいたが、事務処理の煩雑化等により後継者が不足するなど、各活動組織の存続が危ぶまれていた。
- 活動継続に向け、安代土地改良区への支援の要望があったが、土地改良区において、限られた人員の中、事務支援は厳しい状況であった。

取組内容

- 平成24年度に11組織を統合・広域化し、安代土地改良区へ事務を委託。令和元年度から新たに1組織が加入。



- 各地区活動組織の活動記録を土地改良区が独自に開発した「活動記録集計・会計処理システム」によりとりまとめを実施。



取組の効果

- 土地改良区では、事務を受託したことで専従職員の雇用を創出が図られた。また、組織においても、事務を土地改良区で実施しているおかげで活動に専念出来ている。(R4活動参加者延べ4,781人)
- 独自システムの活用により、全体及び各組織の事務の把握が容易となった。
- 地区活動組織の活動を参考にこれまで取り組まなかった活動に取り組む組織が増えた。
- 広域組織として一括で資材を注文することで安価に購入している。
- 予算は地区活動組織で面積按分しているが組織間での予算融通が可能となった。



すりぬかちくのうち・みず・かんきょうほぜんかい 摺糠地区農地・水・環境保全会

いちのへまち
(岩手県一戸町)

- 本地域は岩手県の北部に位置し、国道4号の最高地点(458m)の南東側に広がる標高400~500mの高原地帯で冷涼な気候の地域であり、この立地に適した農業として、高冷地野菜の栽培や酪農などによる農業経営を展開している。
- 平成14年度から畑地帯総合整備事業により農業生産基盤が整備されたことから野菜の生産量、品質がともに向上した。
- 摺糠地区が自ら活動区域を増やしたことに加え、同地区の活動が隣接集落から評価され、大塚集落、宇別集落が活動に参加し、活動区域を拡大している。
- 活動を通じて、地域の共同活動を若い世代に継承していく取組を進めている。

【地区概要】 ※R4年度時点

- ・取組面積344ha
(田33ha、畑259ha、草地52ha)
- ・資源量 開水路18.8km、農道10km
- ・主な構成員 農業者、自治会ほか
- ・交付金 約13百万円 (R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 農道や排水路が未整備の所が多く営農に支障をきたしていた。
- 平成14年度からの畑地帯総合整備事業により農業生産基盤が整備されたことから野菜の生産量、品質がともに向上したことで、農業経営の安定や若い世代の定住が進んだが、地区の活動や行事を若い世代に継承していくことが課題となっていた。



高原地帯に広がるほ場

取組内容



- 水路や農道の維持管理や植栽等の保全管理を実施。
- 本活動組織が中心(きっかけ)となり別途組織された団体との連携
 - ・協力による地域づくり活動を実施。
 - ・大志田ダム周辺の環境美化活動。
 - ・子供会や老人クラブを交えた3世代交流会の開催協力。
 - ・地元で開催されるクロスカントリースキー大会の支援による都市と農村の交流。



老人クラブの協力による花壇整備

取組の効果

- 以前から草刈りや泥上げ等の共同活動を行っていたが、多面的機能支払交付金を導入したことにより、保全活動への参加者が増加(延べ参加人数: 399名(R1) ⇒ 1,513名(R4))
- 3世代交流会を兼ねた収穫祭などに若い世代とその子供たちが参加。このような世代間交流などにより地域の共同活動が次世代に受け継がれている。



3世代が交流する収穫祭

ひろながちいきしげんほぜんたい おおさきし
広長地域資源保全隊（宮城県大崎市）

- 本地域は宮城県中央に位置し、世界農業遺産にも登録されている大崎市鹿島台の中西部の沢地である。
- ブラックバスなどの外来種の駆除により、大崎市の天然記念物となっている絶滅危惧種「シナイモツゴ」が生息できる良好な水質、自然環境へ。
- NPO法人認証のブランド米「シナイモツゴ郷の米」の認知度向上に寄与。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積35.5ha（田35.5ha）
- ・資源量 水路13.3km, 農道7.9km
ため池11箇所
- ・主な構成員 農業者、自治会 等
- ・交付金 約2.9百万円（R4）

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

農業用施設
の機能増進

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

自然災害の防災
・減災・復旧

生態系保全 環境保全
型農業に関する取組

活動開始前の状況や課題

- 少子・高齢化の進展で草刈りなどの基礎活動への参加人員の確保が難しくなってきた。
- ブラックバスの駆除を実施してきたが、地区外の釣り人による再放流で振り出しになる溜め池も見られた。
- 高齢化が進む中で、活動の作業班体制の確立が最大の課題となっていた。

取組の内容

- 景観形成活動として、農道等への花の植栽
- ため池のブラックバス駆除活動による生態系の回復とシナイモツゴ生育のため池の保全
- NPO法人「シナイモツゴ郷の会」と連携し、小学校の里親制度で育てられた稚魚の放流活動
- ため池の水量調整による防災・減災
- 地域団体と連携した「シナイモツゴ郷の米」の収穫体験や学習会の実施
- カレンダー・冊子の作成による内外への活動のPR

取組の効果

- ほ場整備事業から外れた溜め池や水路の補修が進み、管理の負担が大幅に軽減された。
- 毎年度の駆除活動により、地域の2級河川、広長川のブラックバスが減少した。
- 活動を通じ、シナイモツゴの棲むきれいな溜め池を保全管理し、NPO法人認証の特色あるブランド米「シナイモツゴ郷の米」の認知度を高め、農業所得の向上を図っている。



シナイモツゴ郷の米
刈り取り体験



シナイモツゴ郷の米



シナイモツゴ



外来種の駆除



地域への啓発看板



カレンダー作成



活動が新聞に



さんぼんづかしゅうらくしげんほぜんたい せんだいし
三本塚集落資源保全隊（宮城県仙台市）

- 本地域は宮城県仙台市の東部に位置し、市の中心部より車で30分弱、海岸より2～3kmの平坦な地域で、農業振興地帯として水稲稲作の盛んな地域である。
- 本交付金の取組により、年代・組織を超えた交流が進み、震災時には避難所の運営や安否確認など、地域コミュニティの強化にもつながっている。

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積 90.5ha
(田90.2ha、畑0.3ha)
- ・資源量 水路23.3km、農道24.5km
- ・主な構成員 農業者、町内会、婦人防火クラブ、子供会、JA青年部 等
- ・交付金 約4.6百万円(R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 昭和33年より10a区画の耕地整理が始まり38年に完成。
- 暗渠排水により排水も良くなり収量も増加したが、機械化と共に兼業が増え、専業農家が激減。
- 用排水路は土側溝のため、泥上げや川底の草刈りが負担。
- 長年、共同作業で実施してきたが、高齢化や若者の不参加により負担が増加。
- 後継者は就農せず、共同作業に参加する労力も減少。
- 耕作放棄地が発生し、農村集落が衰退すると危惧。

取組内容

- 土水路や農道管理、景観形成のための花の植栽やクリーン作戦、啓発活動や地域住民等との交流会を展開。
- 1期対策の途中で東日本大震災が発生。大津波（約2m）による被災で活動の中止を決定。
- 保全隊の連携を活かして避難所の運営や安否確認、復旧活動に取り組む。
- 震災2年後には地区の要望により活動を再開。高齢者から子どもまで幅広い年代の参加者が増加。
- コロナ禍ではSNS（LINE）を活用し、役員会などの接触機会を減らすなど、感染対策を実施。

取組の効果

- もともと農作業の共同作業が行われ、連携が強い地域であったが、活動の実践により、年代・組織を超えた交流がさらに進んだ。
- 震災直後も避難所運営や安否の確認など、被災時の迅速な対応を保全会役員を中心に連携良く運営できた。
- 地域への関心の高まり、美化意識も向上し、共同活動以外でも、郷土料理講習会や施設巡りなど、自発的にイベントを企画・実施するなど、多様な参画のもと地域の活性化とコミュニティが増大し、住民同士の絆が強くなった（顔の見える関係）。



農地の被災



避難所の運営



安否確認



クリーン作戦



植栽活動



交流会の様子



NPO法人化と地域環境保全の推進

中間農業地域



キーワード

いしもだふるさとほぜんかいこういききょうてい かみまち

石母田ふる里保全会広域協定（宮城県加美町）

- 本地域は宮城県の北西部に位置し、ブナなど豊かな森林を有する船形山や薬菜山がそびえており、「世界農業遺産」に認定された大崎地域に位置している。
- 学校教育と連携し、地域の歴史的農業用施設紹介や伝統農法などの学習を展開。
- 地域人材を活かし、水路等の直営施工や田んぼダムを実施。
- 交付金活動以外に幅広く取り組むため平成29年7月にNPO法人化。

【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積245ha（田245ha）
- ・ 資源量 水路36.0km、農道23.3km
- ・ 主な構成員 農業者、小学校、PTA等
- ・ 交付金 約7.4百万円（R4）

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

地域資源の
保全管理

構造改革の後押し等
地域農家の貢献

地域外からの
人の呼び込み

若者女性など
の多様な参画

教育機関との
連携

地域防災（田んぼダム）の取組

組織の広域化
・体制強化

活動開始前の状況や課題

- 過疎化や高齢化が進み農業従事者は年々減少、新規就農者はわずかであった。
- 後継者の59.2%は他産業に従事しているため、後継者不足が懸念。
- 若者や行事が少なくなり、地域住民同士の交流が低下。農村環境に対する意識も希薄な状況。
- ほ場整備後、40年以上が経過し、水利施設も老朽化。

取組の内容

- 9集落で広域的な活動組織を立ち上げ、農地維持活動や施設の軽微な補修、農村環境保全活動、長寿命化の活動を展開。
- 学校教育と連携し、「めだかの学校びおと〜ぷ」や「水の学校」「ほたるの学校」等の地域の環境学習を年間を通じて実施。
- 田植えや稲刈りなど、伝統農法による農作業体験を実施。
- 郷土を拓いた先人たちの開削史や歴史的農業用施設を地域内外へ紹介。
- 事務局の女性活用や広域組織による運営の効率化を展開。
- 地域の人材を活かし、ゲートや水路補修の直営施工などを実施。
- 令和5年度からは、組織が独自に製作した簡易落水板柵を設置し「田んぼダム」の取り組みを開始。地元の大工に依頼し、状況に応じて対応可能な機能分離型を制作。



独自制作の簡易落水板柵（田面に差したり、畦に立てかけるだけ）

取組の効果

- 「環境は人をつくり、人は環境をつくる」という理念のもと、農業法人等との連携や地域の人材を活用し、作業や施設の保全管理を効率的に実施することができた。
- 水利施設やびおと〜ぷを見学するため、近隣市町村から親子や非農家の参加も増加した。
- 環境保全学習の場を提供することで学校教育と連携。次世代の子どもたちに地域の歴史や農業の重要性を発信する機会が増えた。
- 土地改良区との連携により計画的な施設の保全管理が進み、賦課金滞納の解消にも貢献した。
- NPO法人化により多面的以外の活動にも取り組めるようになった。



通称「びおと〜ぷ」でのめだかの学校



田植えや稲刈りなど農作業体験



水の学校



『地域の結いと絆』地域コミュニティの推進

平地農業地域



キーワード

農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献

農村環境の保全・向上

構造改革の後押し等
地域農業への貢献

おおだてかんきょうほぜんかい くりはらし
大館環境保全会 (宮城県栗原市)

【地区概要】※R4年度時点

- ・認定農用地面積87.3ha (田87.3ha)
- ・資源量 水路10.0km、農道7.0km
ため池7箇所
- ・主な構成員 農業者、女性会、子供会 等
- ・交付金 約3.9百万円 (R4)

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

取組の効果

- 共同活動がきっかけとなり、地区民の交流活動、自治会との連携が年々充実している。
- 農業者の配偶者や家族・児童・生徒が参加することで地域への思い入れ、農業や地域への興味・関心、更には自然愛護・保護の気運が高まり、夏祭りなどの地域コミュニティ活動の活性化にもつながっている。生き物調査やソバ打ち体験に合わせて帰省する親子もでてきている。
- 共同活動により施設の維持管理が安定的に実施できるようになり、担い手も安心して耕作面積の拡大をすることができた。

活動開始前の状況や課題

- 農業従事者の高齢化や後継者の不足により、共同活動の参加者減少の歯止めと作業量全体の調整の中で農地維持の継続が課題となっていた。
- 農村の環境保全活動については、農業者個別の作業としたり、地区内の各団体がそれぞれにイベント活動等を実施する状況であった。

取組の内容

- 大館地区は、ラムサール条約登録湿地に指定されている伊豆沼・内沼の上流域に位置。環境保全活動として、ため池の外来種駆除のほか、共同での植栽による美的景観の構築を実施。
- 遊休農地の有効活用として、ソバの栽培やコスモスの植栽を実施。
- 栽培したソバ刈り体験やソバ打ち体験など地域交流も行っている。
- 地区子供会に参加を呼びかけての生き物調査に取り組んでいる。
- 地域住民との学習会等、農業者・非農業者が世代を超えて交流している。
- 毎年、「おらほの自然探検記(生き物調査)」を作成。地域を理解する貴重な資料であるとともにパンフレットとしても有効に活用している。



生き物調査



野菜を持ち寄った収穫祭



外来種の駆除 (池干し)



ソバ刈り



ソバ打ち体験



「自分たちで守る！」住民参加型の推進

中間農業地域



キーワード

農村の地域「ミニコミュニティ」の維持・強化へ

農村環境の保全・向上

やつみやちくかんきょうしげんほぜんかい しろいしし
八宮地区環境資源保全会（宮城県白石市）

- 本地域は宮城県南部白石市の北西部に位置し、農用地は標高50m～400mの中山間地域に散在している。
- 「自分たちの地域を自分たちで守る」という理念のもと、地域住民全員参加型を目指した景観形成活動、地域住民との交流活動としての生き物調査などを実施し、将来を担う子ども達の農業についての理解を深める活動を展開。

【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積117.8ha
(田97.8ha、畑20.0ha)
- ・ 資源量 水路36.8km、農道9.7km
- ・ 主な構成員 農業者、自治会、子供会 等
- ・ 交付金 約5.6百万円（R4）

農地維持
支払

資源向上
支払
(共同)

資源向上
支払
(長寿命化)

活動開始前の状況や課題

- 高齢化、後継者不足による耕作面積の縮小や離農が進み、耕作放棄地が発生する恐れ。
- 勾配や中山間地など条件の悪い農地の保全管理の担い手や方法に不安があった。
- 今後、担い手の減少が見込まれることから、既存の農地法人組合との連携による農業用施設の保全管理への協力と、近隣の経営組織や個人経営の担い手等と連携し地域農業を強化していく必要がある。

取組の内容



- 遊休農地を活用して蓮田化やひまわりの植栽を実施。農道や水路、農地路肩には水仙等花類の植栽を実施。



- きめ細やかな雑草対策として、農道や農地の法面に作業の省力化に有効な雑草抑制芝ティフブレアの植付けや、防草シートを設置して芝桜を植え付け。



- 地域住民との交流活動として、生き物調査などを実施し、将来を担う子ども達の農業についての理解を深めている。



- 子供会が「環境浄化ポスター」を作成し、農村環境の美化意識を啓発。農業祭へのパネル展示などで活動をPR。



環境浄化ポスター



活動のパネル掲示

取組の効果

- 遊休農地に蓮やひまわり等景観植物の植栽を行うことにより、農村景観の向上とともに農用地の荒廃を防ぐことができた。
- 雑草抑制芝の植付けにより雑草対策の省力化が図られた。
- 地域住民全員参加型を指向しており「自分たちの地域を自分たちで守る」という意識の醸成にも寄与。



遊休農地を有効活用した蓮田・ひまわり植栽



農道・水路等の植栽



芝桜植え付け



子供会の生き物調査



のだけかんきょうまもりたいこういききょうてい わくやちょう 笠岳環境まもり隊広域協定 (宮城県涌谷町)

- リーダーの不在等で一部の集落が本活動に取組めないことが予想されたため、組織の立ち上げには土地改良区が積極的に関与し、旧市町村単位の広域化を推進。
- 運営委員会は土地改良区と連携し、各集落を基礎とする地域全体の維持管理の調整を一体的に実施。
- 集落自ら維持管理や補修作業を行うことで施設を大切に使う意識を醸成。地域の方々のコミュニケーションの向上にも大きく寄与。

【地区概要】※R4年度時点

- ・ 認定農用地面積532.8ha (田532.8ha)
- ・ 資源量 水路135.6km、農道29.4km、ため池7箇所
- ・ 主な構成員 農業者・非農業者 等
- ・ 交付金 約27.2百万円 (R4)

農地維持 支払	資源向上 支払 (共同)	資源向上 支払 (長寿命化)
------------	--------------------	----------------------

活動開始前の状況や課題

- 地域内の農家戸数は、農地集積による農業経営規模拡大や過疎化、高齢化により減少傾向にあり、集落の共同活動が困難になってきており、規模拡大農家の作業負担の増加が懸念。
- 施設、農地の老朽化に伴う破損、漏水、不同沈下等が発生し、維持管理が困難な状況となっていた。
- 造成された施設については土地改良区や耕作者で維持管理してきたが、高齢化等により耕作者の62%が適正な維持管理が困難な状況。



生き物調査



カバープランツ

取組内容

- 地域の14集落の内、事務作業が煩雑なため、リーダーが見つからず活動ができない集落が発生することを予測。組織立ち上げには土地改良区が積極的に関与し、旧市町村単位の広域化を推進した。
- 草刈りなどの基礎的な保全活動、施設の軽微な補修や地元小学生との生き物調査を実施。
- 防草シートにシバザクラを組み合わせ、草刈り作業の省力化と景観形成の向上を図った。
- 長寿命化や補修箇所については、土地改良区と連携し、水路の補修を行っている。



防草シート



モアによる草刈り

取組の効果

- 【土地改良区との連携】
- 土地改良区の体制を活用し、全構成員から施設の不具合や補修箇所等の申請を受け確認。運営委員会と連携し、年間活動計画を策定。計画的な施設の補修が進んでいる。
- 長寿命化による老朽化施設の更新についても土地改良区が実施路線の調整、測量、設計、積算を支援している。
- 防草シートなどにより草刈り作業が省力化。集落自ら維持管理や補修作業を行うことで、施設を大切に使う意識を醸成。施設の維持管理に大きく貢献するとともに、地域の方々のコミュニケーションの向上にもつながっている。
- 【広域協定の重点活動】
- 協定全体で強固な維持管理体制を構築することで、担い手への支援体制を確立した。
- トラクターモアの活用など、効果的・効率的な活動を実現。